

活動名	団体名	特定非営利活動法人 I PRAY
	地域	広島県広島市
	代表者	理事長 榎並 毅
	支援金額	25 万円
活動概要		
<p>子どもたちの平和創作劇 I PRAY は、1996 年の結成以来 16 年間、毎年 8 月 6 日を中心として定期的な公演を行いながら、平和と命の大切さを訴えてきました。また、公演活動や国際交流活動を通じて青少年の育成に貢献してきました。</p> <p>2012 年度は、特に 2011 年 3 月の東日本大震災の復興支援の活動として、歌と踊りを通して子どもたちの笑顔と元気を届ける活動を行いました。</p> <p>◆実施時期 2012 年 8 月 18 日(土) ～ 22 日(水) 宮城県仙台市、石巻市、山元町</p> <p>◆参加人数 引率・指導者: 5 人 青少年: 15 人 保護者: 4 人 途中参加: 役員 2 名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員: 26 名</p>		



74 名の小学生と 10 人の先生が亡くなった大川小学校。慰霊碑の前で歌を歌うが、悲しみで声が詰まってしまった。



現地での練習風景
被災地を見学し、復興に取り組む方の姿を見て全力で踊ろうと夜も現地で練習に励むメンバー



交流風景。被災地の皆さんの前で精いっぱい笑顔で歌って踊る I PRAY のメンバー



現地でご協力いただいた、仙台 YMCA のスタッフや町役場や公民館の職員のみなさんそして I PRAY のメンバーたち

◆実施に伴う効果

- ・今回の目的としては災害復興支援という目的があったが、もう一つの大きな目的として今回の公演を通じて、津波によって大きな被害と犠牲を出した被災地の状況を肌で感じ、また、人との触れ合いを通して改めて命の大切さということを見つめ直す機会を子どもたちと共に持つことであった。感受性の強い子どもたちは、自然の猛威を実感するとともに多くの亡くなった人、残された人の気持ちを共有することができた。また、全力で復興に努める人々の姿に励ましと勇気を貰い一人ひとりが大きく成長することができた。そのことは、現地の公演行ってゆく上で大きなモチベーションとなり、その後の活動の中でも生きている。
- ・子どもたちの心の成長と強い思いは、現地の公演でも力強い演技となり見る人を引き込んでゆきました。子どもたちの笑顔と一緒に笑い楽しみ、真剣な演技には沈黙され、私たちの最大のメッセージである「私たちは、立ち上がった。」という廃墟から立ち上がるシーンでは、感激され涙されていました。楽しむときは心から楽しみ、感激するときは共に感激する、見るものと演じるものが一体となれた充実した公演でした。帰えられるときには、「とても楽しかった。」「来てくれてありがとう。」など多くの感謝の言葉をいただきました。
- ・今回の公演では、地元でボランティア活動をしている仙台 YMCA の支援のもとに実施することができた。地元の教育委員会や公民館の協力、ケーブルラジオ局への出演や避難所のみなさんによるビラ配りなど、多くの地元のみなさんのご協力によって実現し、みんなで作り上げた公演でした。支援する者の思いと地元の方の思いやニーズを繋ぐ存在との連携の重要性を強く感じました。

◆苦勞した点

- ・私たちの活動が、小中学生及び高校生を中心とした活動のため、学校行事や受験による事情により日程によって参加者が集まり難い状況があった。また、小学生低学年の場合、今回のように遠い場所へのバスによる移動など、保護者によっては子どもへの負担や健康を考えられ辞退されることがあった。
- ・県外や海外の公演では、現地のしっかりとした受入れ団体がないと場所の確保や広報や人集めが十分にできないところがある。今回は、現地の仙台YMCAのボランティアセンターの協力により公演場所、宿泊先もさほどの問題なく確保することができた。また、現地のケーブルラジオ局や社協の方と避難所のみなさんのご協力でも広報も順調に行えた。ただ、予定していた南三陸町での公演は、現地の他の行事との兼ね合いで断念することとなった。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・全般的には、出演者の進学や休団による人数の減少がある。地元の小中高등학교との連携を強め出演者の確保をしていかなければならない。
- ・今後計画的に県外や海外での公演を行っていきたいが、そのためには、多大な費用が掛かるが、出演者の個人への負担を軽減するためにも積極的に寄付や助成金をお願いしてゆく必要がある。
- ・内容のグレードを常に向上させてゆく努力をしているが、演技や歌唱力の向上、映像とのコラボレーション等の取り組みなどを進め、また、何よりも子どもたちの平和や命の大切さに対する意識を高め国際的な視野を広げモチベーションを上げてゆく必要がある。そのための、平和学習や国際交流や支援活動など多くの体験の機会を提供してゆくことが必要だ。

◆活動を終えての感想・意見等

- ・今回の東日本大震災復興支援公演では、効果の所でも書きましたが、現地の視察や地元の方との交流を通して命の大切さ、被災された方や亡くなった方や遺族のみなさんの思いと復興とそれに携わる方の思いを体感し、私たちが活動する意味を再確認し、活動をこれからも続けてゆく力をいただきました。その中で、子どもたちの心も演技も大きく成長しました。また、4泊5日という異年齢の子どもたちによる集団生活を通して、出演者の中でのチームワークやリーダーシップもしっかりと身に着けることができました。このような機会を与えてくださった皆様に心より感謝申し上げます。